

教科 科目名	国語	単位数(週あたりの授業時数)	2 単位
	現代の国語	履修学年(類型)	1 学年
教科書名(出版社名)		現代の国語(東京書籍)	

●学習到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

●学習計画

学期	月	単元名	学習内容
1	4・5月	視点を定める	題名や具体例、論の展開に注意しながら筆者の主張を捉え、物事を多様な視点から見る姿勢を養う。
	6月	言葉へのまなざし	言葉の意味を理解してコミュニケーション力の向上を図り、言語生活を豊かにする姿勢を養う。
	7月	課題の設定	読んだ文章から問いを作り、構成を工夫して意見をまとめる。発想を広げてアイデアを整理し、的確に伝える。
2	9月	メディアを考える	比喩などの叙述を把握しながら筆者の主張を的確に読み取り、現代社会の問題について考える。
	10月	共に生きる	比喩や具体例・筆者の体験などに注意して筆者の考えやそれぞれのテーマを読み取り、自分の考えを広げる。
	11月	科学から見た人間	文のつながりに着目して科学論を読み、ヒトが守るべき「分際」や人工知能と人間の違い、人間の思考や学ぶことの意義について考えを深める。
	12月	情報の収集	情報を集めて整理し、考えを深める。また、情報の信頼性を吟味し、伝える相手や目的に応じてまとめる。
3	1月	近代の先へ	現代社会について書かれた文章の読解を通して、論述する視点を工夫することによる効果について学ぶ。
	2月	整理・分析	読み比べて考え方を明確にし、伝わりやすい構成で書く。話し合いの進め方を工夫し、考え方を深める。
	3月	まとめ・表現	論点を整理して論証し、レポートの形式で書く。引用の方法を学び、適切に引用できるようにする。発表の仕方や、話の聞き方を工夫する。

●観点別評価

3観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	実社会に必要な国語の知識が身につけており、論理的に相手に伝えられている。	言語活動を通して、言葉による見方・考え方を働かせ、的確に理解・判断し効果的に表現している。	言葉を通して他者や社会に関わっている。
B	実社会に必要な国語の知識を身につけようとし①、論理的に相手に伝えるように使おうとしている②。	言語活動を通して、言葉による見方・考え方を働かせ①、的確に理解・判断し効果的に表現しようとしている②。	言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
C	Bを基準とし、①もしくは②どちらかが不十分である。	Bを基準とし、①もしくは②どちらかが不十分である。	言葉を通して他者や社会に関わろうとしていない。
評価方法	定期考査 発問に対する答え	定期考査 発問に対する答え	定期考査 発問に対する答え
評価の重み	$\alpha=0.4$	$\beta=0.4$	$\gamma=0.2$